

# 経済発展の八条件

中尾 武彦

昨年四月末にアジア開発銀行（ADB）に來て以来、二十近くのアジア・太平洋地域の途上国を回った。プロジェクトの現場の視察も大事だが、首脳や大臣との率直な意見交換を通じてその国の課題を共有し、ADBが協力でできる分野を見定めていくのは、総裁の大事な仕事だ。そのような各国への訪問を通じて考えてきたことが、なぜ同じアジアの国の間でも発展に大きな差があるのかという問題だ。

私は以前、各国が発展するのかどうかは、結局はその国の実力、たとえば教育の程度や労働者の勤勉性、培ってきた技術の伝統、などに大きく依存するのではないかと思っていた。しかし、今は、政府の政策のあり方によって発展は大きな影響を受けるといふ思いが強くなっている。なぜ一九五〇年代には日本に次ぐ一人当たりの所得水準を誇

っていたフィリピンが、ASEANの主要五カ国の中で最下位（二〇一三年一人当たりGDPで二千八百ドル）になってしまったのか。中国は一九七〇年代末の改革開放以降高い成長を続けて一人当たりGDPも七千ドル近くになっているのに、なぜ同じアジアの大国であるインドが一千五百ドルなのか。

最近、経済発展の八条件ということを考えている。それほど新味があるわけではないが、財務省、IMF時代も含めた私の経験に基づいている。第一は、インフラへの投資だ。電力、道路、港湾などが整備されていなければ、国内産業は発展しないし、外国からの直接投資も来ない。国民生活にも大きな影響がある。インフラ投資とは多少定義が異なるが、GDPに占める公共投資の比率（二〇一〇年）を見ると、中国の二二%に対しフィリ

ピンは三・七%にとどまっている。実際、中国に行くたびにハイウェイや都市インフラが新しく作られているのに驚く。第二は、教育や保健など人的資本への投資だ。多くの国で小学校への入学率は高くなっているが、中等教育や高等教育の質はどうか、職業訓練が産業のニーズと結びついているのか、など課題は多い。第三は、マクロ経済の安定だ。インフレ率が二桁以上、財政が不安定で金利も高いような環境では、だれも将来のために貯蓄したり投資したりしない。

第四は、開放的な貿易・投資体制、民間セクターの促進だ。元の計画経済の国のみならず、インドやインドネシアなど多くの国が社会主義的影響で輸入代替政策、価格統制、産業の国有化などを進めた時期があり、成長を大きく妨げた。その後アジアのほとんどの国が、より市場経済を志向する政策に切り替えている。もっとも規制や手続きが複雑すぎて、ビジネス環境がよくないとされる国は今も多い。第五は、政府のガバナンスだ。汚職は社会正義に反するのみならず、人々のエネルギーを非生産的な行動に向けて成長を阻害する。行政の執行能力の高さは、各国のパフォーマンスと密接に結びついている。政府や国有企業の透明性、説明責任も不可欠だ。第六は、社会の平

等度だ。資産家と庶民の格差があまりにも大きな国では、成長という目標が国民に共有されないし、労働者の質も高くなりにくい。

第七は、将来へのビジョン、戦略だ。政府には、その国がどの強みで発展していくべきなのかを見極め、戦略を国民と共有し、それに基づき優先的に支出や公共投資を行い、民間セクターにも指針を与えていく責任がある。第八の条件は、むしろ最初に来るべき条件で、政治や治安の安定、周辺国との良好な関係だ。スリランカでは、二〇〇九年五月にタミール関係の紛争が解決した後、七%程度の高成長を続けている。ミャンマーが少数民族との和解を進め、国際社会との関係を改善したことは大きな進展だ。最近のフィリピン政府とミランダオ島のイスラム勢力との包括合意も、直接投資を招くチャンスにつながる可能性がある。

日本のような先進国（一人当たり四万ドル）まで行けるかどうかは、たぶん上記の条件だけでは説明できない。しかし、低所得国から中進国までは、やるべきことをやれば達成できると思う。実際に各国とも努力をしているが、問題は、それをサポートする政治的なりリーダーシップと国民のサポートが確保されるかどうかである。

アジア開発銀行総裁